

## 山と電気の風景論 ③②

鹿島槍ヶ岳&五竜岳～後立山連峰のキレットを越えて～

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

### 八峰キレットの上級者コース

両座は、前号の白馬岳と常念岳の北アルプス山脈の間にある後立山連峰の名峰である。300m以上の深い切れ落ちたキレットで連なっている。その岩壁の中のはざまに、登山の遭難防止のため匠の苦闘の歴史を偲ばせるキレット山荘がある。その峻険な山荘に泊り、両座とキレットの醍醐味、そして積雪や雪渓の恵みである黒部川、鹿島川、姫川等からの水力電源の開拓と電化への歩みに思いを馳せた。

今回は、上級者コースであるため、初級者の方々には、まずは各座ごとに山小屋泊での一泊二日の二回の安全登山をお勧めしたい。

### 鹿島槍ヶ岳の由来と命綱の山小屋

鹿島槍ヶ岳は、黒部川の富山側では、かつて加賀藩の黒部奥山廻りと称して、材木や山の幸、領地を求め命がけの冒険をした記録がある。当時は、越中(富山県)側から断崖絶壁の1000mを登りつめたという。一方、鹿島川(高瀬川の支流)の流れる東方の信州(長野県)側では、源平の戦いに敗れた平家の落人が人里離れた鹿嶋の地に集住したというのが、名前の由来という。登山口は、黒部立山アルペンルートの大町市扇沢駅の近傍で、関西電力黒四ダムの開発で新たに整備された柏原新道コースを辿った。

五竜岳には鹿島槍ヶ岳南峰・北峰の双耳峰から、すぐにキレットが落ち込み、そのきつい岩稜を越えていく。当日は、小雨とガスがたちこめ風が吹く中、キレット越えは単独行となった。ヘルメットを用意し、雨天装備をして慎重に三点支持で鎖場等を進んでいった。キレット小屋に到着するころにはガスが

とれ視界が広がってホッとした。小屋の両側が絶壁になるロケーションにどうやって小屋を建設したのか、材木を運ぶだけでも大変な「忍苦と人工(にんく)」が必要だったろうと驚きであった。そのなかで、美味しい食事でありつけ、身体を休めることができ本当に感謝である。この小屋がなければ、多くの登山家が体力が尽きて遭難するだろうと感じた。

### 五竜岳から遠見尾根へ

翌朝は一転、晴天となった。山荘から黒部川や剣岳等の立山連峰の絶景を楽しめた。その後、屹立した岩壁やトラバースを緊張しつつ抜けて、五竜岳頂上に立った。奥深い山脈に、どっしりとした雄大な山容で、文字通り、5匹の巨竜が空を舞っている雰囲気があった。

五竜山荘で、主や多くの岳人らと会談して、距離が長い遠見尾根を五竜岳の山容を振り返りつつ、ひたすら下った。快晴の好天で、大勢のツアー登山者、団体登山客とすれ違った。地蔵の頭まで着き信州の浅間山、雨飾山、四阿山、美ヶ原などを遠景した。アルペン平駅から、ゴンドラで山麓駅では貴重なコマクサなどの高山植物が見ごろな白馬五竜山野草園を一回りした。そして地元温泉で疲れを癒やした。

### 鹿島槍ヶ岳<標高2890m>(平成27年9月4日)

○登山口～鹿島槍ヶ岳(南峰)「柏原新道」

11.8km, 7時間(休憩含む), 標高差1470m。

○鹿島槍ヶ岳～キレット山荘「キレットコース」

1.3km, 2時間50分(休憩含む), 標高差394m。

【行程】

柏原新道、キレットコース(前日、新宿23時発の専用夜行バス利用)。



鹿島槍ヶ岳南峰からガスの尾根ルート



鹿島槍ヶ岳北峰からも視界が利かない



両岩壁に築かれたキレット山荘に驚愕

5:10 扇沢着。着替えし朝食、準備体操。

6:00 登山口(爺ヶ岳経由)。樹木帯をジグザグ歩く。

7:25～8:05 石畳(石造りの勾配が緩やかな道)。

8:15～8:20 水平道で休憩(小雨が降り雨具装備)。

9:00 鉄砲坂(旧標識、こんな急坂を歩むこと自体が無鉄砲。登りやすくなった柏新道以前の呼称)。

9:15 種池山荘。

10:20 爺ヶ岳南峰(2660m)。

10:35 爺ヶ岳中峰(2842m)。

11:32～11:48 冷池山荘内でカップラーメン食べ暖まる。

12:30 布引山(2683m)。

13:00 鹿島槍ヶ岳南峰(2889m)。ガスで展望利かず。

13:22 北峰(2842m)。ザックをキレット分岐点にデポし登頂。往復時間15分。ほかの登山者は、引き返した。

13:40 キレット分岐から単独行。小雨でガスって風が舞う中、靴を締め直し、急坂の岩壁、ガレ場、ザレ場をアップダウンし、鉄梯子、鎖場を通過。絶壁のなかのキレット小屋を見つけ、足場の狭い30cm～50cm幅の下り坂を慎重に降りた。

15:50 キレット山荘着。

17:40 夕食。定員百名に宿泊者30人ほど(うち20人はツアー客)。小雨に濡れたズボン等は、乾燥室設備で乾燥。

### 五竜岳<標高2814m>(平成27年9月5日)

○八峰キレット山荘～五竜岳

3.5km, 4時間(休憩含む), 標高差344m。

○五竜岳～アルペン平「遠見尾根コース」

7.9km, 3時間43分(休憩含む, ゴンドラ除く歩行時間), 標高差1282m。

【行程】

山荘～五竜コース, 遠見尾根コース。

5:25 朝食。山荘から剣岳など立山連峰見える。登山ツアー団体は、6:30発のため懇談し早出をする。

5:50 単独出発(昼までガスも湧かず、好天で絶景日和)。

7:10 口の沢コル。

7:45～7:51 北尾根のコル。

8:38～8:48 北尾根の頭。

8:55 難所の岩稜地帯の鎖場G5通過。



双耳峰の鹿島槍ヶ岳。北尾根から



五竜岳頂上。剣岳など立山連峰を遠景

9:50～10:00 五竜岳頂上。

10:40～11:15 五竜山荘。ホット珈琲を味わい、登山バッジを購入。岳人談義。ガスが若干立ち込め始めた。

11:25 白岳(遠見分岐点)。

12:48 大遠見山。

13:30 中遠見山。

14:30～14:45 地蔵の頭(山岳絶景スポット)。

14:58 ゴンドラアルペン駅着(テレキャビン)。

15:08 ゴンドラ山麓駅高山植物園散策。白馬姫川温泉竜神の湯で疲れを癒やす。徒歩15分で、JR神城駅。

16:46 神城発～信濃大町～松本。あずさで21:06新宿着。

### 水力ダム新道と電化ルートで電力会社が貢献

フォッサマグナの隆起により山脈が形成された後立山連峰の両座。日本海からの季節風により大量の積雪があり、氷河期の氷河により急峻な斜面が形成され、この急峻な山岳は長い間、悪路で遭難者が多く、人々の出入りを拒んできた。それが、関西電力の黒四ダムの開発に伴って、柏原新道が整備され爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳へのルートが歩きやすくなった。立山黒部アルペンルートの地域開発での影響は極めて大きかった。



柏原新道から関電黒四ダム源流の黒部川

また、五竜岳には中部電力が関係する電化のゴンドラアルペンルートができ、遠見尾根の距離がまだ長いとはいえ、かなり登頂時間が短縮された。とくに登頂して疲れ果てた登山者にとって、この電化キャビンは体力消費を防ぎ助かる。冬場のスキー場もリフトなど電化がなされ、筆者も若い頃によく、鹿島槍ヶ岳、五竜、白馬、梅池などのスキー場に出かけたものだ。そうして、登山者が増えると、さらに登山者の安全とルートの整備にキレット小屋も建設されたのであろう。

信州川でも、両座から豊富な雪解け水・雨が鹿島川(高瀬川の支流)、姫川、信濃川への支流を形成し、電力会社では豊富な水力発電所で地元や都心への電化を支えている。